

1 事業概要

事業名	県営林道開設事業 高岳線
事業場所	周南市大字鹿野上～周南市大字大潮
事業主体	山口県
事業期間	昭和 59 年度～平成 30 年度 (西暦 1984 年度～西暦 2018 年度)
総事業費	5,626 百万円
事業目的	本路線は、森林の適切な整備、森林施業の効率化、林業生産性の向上、水源のかん養など森林の持つ公益的機能を持続的に発揮させるとともに、山村地域の活性化を図るため、地域における基幹的な林道として整備をしたものである。
事業内容	林道開設 幅員 4.0m 延長 20.1km

2 事後評価の視点

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

【費用対効果分析】

区 分	事業採択時・計画変更時・再評価時
評価基準年	平成 25 年度
事業費	5,490 百万円
工期	S59年度～H29年度
費用便益比	B/C= 1.1

【要因変化の分析】

- ・事業費は、136百万円の増額となった。
- ・工期は、1年延長となった。
- ・これらの要因変化を反映した結果、費用便益比は1.1となる。

(2) 事業の効果の発現状況

【事業の効果の発現状況】

- ・林道の開通により、原木市場までの輸送ルートが確保されるとともに10t級のトラックの通行が可能になるなど、木材の輸送力が向上した。
- ・基幹となる道が完成したことにより、人工林が多く伐採時期を迎えたスギ・ヒノキを中心とした区域で作業道の整備が進み、「搬出間伐」や「主伐・再造林」の取組が進展、森林所有者の意欲の高まりとともに森林施業が進んでいる。
- ・伐採時期を迎えた人工林については、伐採、木材利用、造林、保育の森林資源の循環利用の取組が進んでいる。
- ・林道の管理は、県から地元周南市へ全て移管され、適切に維持管理されている。

【事業の効果の発現状況に対する評価】

- ・林道を整備することにより適切な森林整備が行われ、水源のかん養など森林の持つ公益的機能の持続的発揮に寄与している。

(3) 事業実施による環境の変化

【変化の状況】

- ① 自然環境への影響
 - ・野生動植物の生育・生育環境の悪化、溪流における流量の減少などの影響は見受けられない。

- ② 生活・住環境等への影響
 - ・下流山間部の集落から林道への接続が確保され、避難路として利用可能となっている。

- ③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）
 - ・切土、盛土部の法面は、速やかに緑化を行い、法面の安定及び良好な景観を確保している。

(4) 社会経済情勢の変化

【変化の状況】

- ① 社会経済状況及び事業環境等の変化
 - ・本林道の整備による木材輸送力が強化されたことで、切り捨てていた間伐材の搬出・利用や、主伐が可能となり、地域の森林施業が一層進んでいる。
 - ・こうした背景を受け、平成29年度には、山口県森林組合連合会北部木材センター（山口市阿東）が、また、令和2年度には、県内大型製材工場において、施設の機能強化が行われている。
 - ・当地域の森林整備等の中心的担い手となる森林組合（「山口県東部森林組合」、「周南森林組合」、「光大和森林組合」）が、令和4年6月1日に合併し、「山口県東部森林組合」として組織・経営強化され、スケールメリットを活かした森林資源の循環利用等一層促進されることが期待されている。

- ② 関連計画・関連事業の状況の変化
 - ・関連計画、関連事業ともになし。

(5) 今後の事後評価の必要性

なし

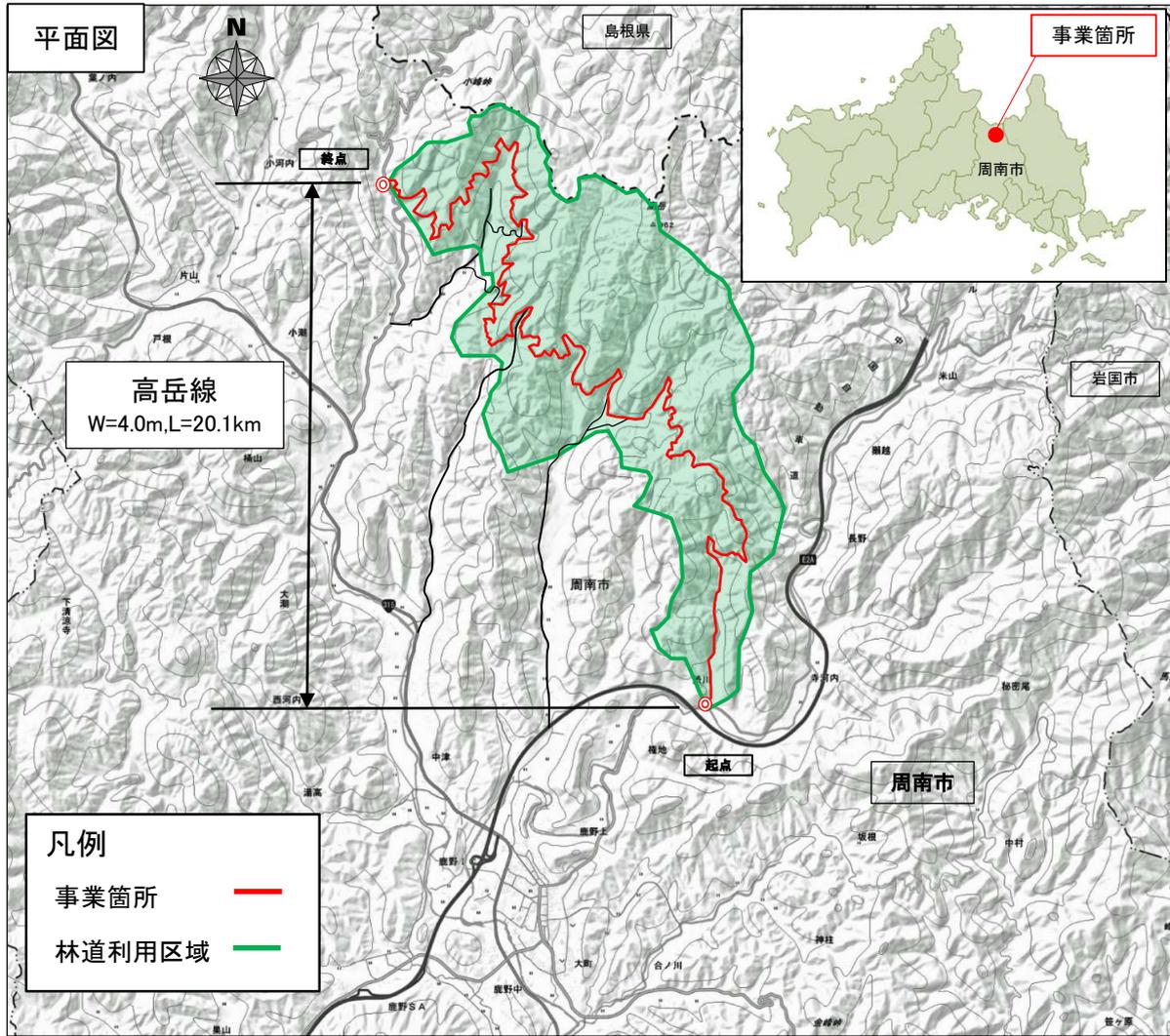
(6) 改善措置の必要性

なし

(7) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

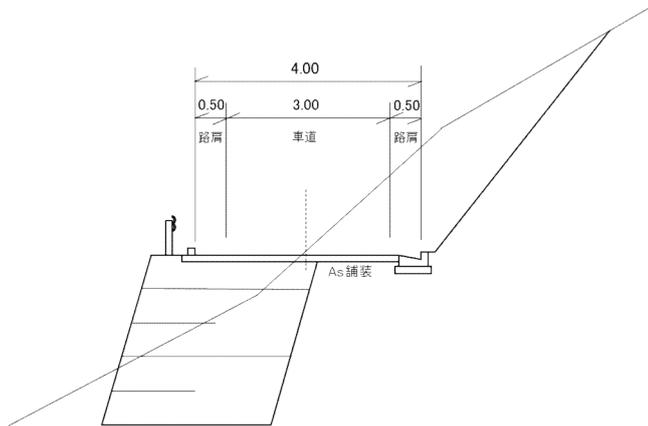
なし

林道 高岳線



※ この地図は、国土地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものであ

標準断面図



写真



森林資源の循環利用が進んでいる

